

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成



ユネスコスクール便り

№78

令和元年 7月 29日
大牟田市エネコスクール
担当者通信

ESD の理念は国の枠を超える

～中国政府日本教職員招へいプログラムを通して～

6月8日(土)～15日(土)に、中国政府日本教職員招へいプログラムが実施されました。このプログラムは ACCU (ユネスコ・アジア文化センター) の事業のひとつで、中国政府の招待を受け、参加者が中国の教育現場や文化への理解を深め、寛容で持続可能な社会の担い手となることなどをねらいとして、毎年実施されているものです。

今年は日本国内の ESD に取り組む教職員など 25 名が中国の教育部や各学校を訪問し、大牟田市からは川崎由美子 教頭(大正小)、宮崎紀子 主幹教諭(明治小)、下地徹 主幹教諭(みなと小)が参加しました。

－ 教育部や各学校への訪問を通して －

中国教育部では、中国の教育の概要について説明を受けました。その中で、重点的施策として「教育の均一化」が挙げられました。広大な国土を有する中国において、都市部と農村部の差を無くし、誰もが平等に教育を受けられることを目指した様々な取組が紹介されました。



中国教育部を訪問した際の様子

これはまさに SDGs の理念である「誰一人取り残さない」に共通する考え方だと思います。歴史や文化の異なる国においても SDGs の理念は国の枠を超えて共有されていることを実感するとともに、ESD の価値の普遍性を改めて認識しました。

小学校や中学校など各学校への訪問では、実際の授業の様子を見学したり教育活動の特色について説明を受けたりしました。特に多民族で構成される雲南省の学校では、各民族の文化が尊重された活動が展開されていました。



書道の授業の様子

大牟田市においても各学校の特色を生かした、地域性を大切にした ESD が展開されているように、ここでも国の枠を超えた ESD の理念の普遍性を実感することができました。

ESD を通して、持続可能な社会づくりの担い手となる各国の子どもたちが、多様性を尊重し、国の枠を超えてよりよい社会のために協働していくことは、とても素晴らしいことだと考えます。

そのために、これからもより一層充実した教育活動を展開しなければならぬと思いを強くすることができた、貴重な経験となりました。

教えて！
大牟田の ESD



Q: 「ユネスコスクール担当者」
について教えてください

大牟田市では、全校に校務分掌として「ユネスコスクール担当者」が位置付けられています。担当者は、校内外の様々な方々と連携して学校の ESD 推進に取り組んでいます。また、定期的に「ユネスコスクール担当者会」が開かれ、ユネスコスクールに関わる行事の運営や研修会、ユネスコスクール便りの発行等を行っています。